

県内河川・湖沼の概要

1. 調査手法

河川・湖沼の概要を取りまとめるにあたり、次のとおり照会・調査を実施した。

- (1) 各水域における水温、全亜鉛等の水質状況について、公共用水域水質測定結果から取りまとめた。
- (2) 水質状況を取りまとめた結果、過去3年間（H19～H21年度）において全亜鉛が環境基準を超えた6河川については、周辺の状況について調査を行うとともに、排出源となる事業場への立入調査を行った。
- (3) 河川管理部局へ各水域の河床材料等の構造及び概況について照会し、回答を基に取りまとめた。
- (4) 水生生物の生息状況、産卵場、幼稚仔生息場情報等について、水産部局及び市町村へ照会し、回答を基に取りまとめた。
- (5) 関係機関へ照会した結果、十分な生息情報が得られなかった10河川については、現地に赴き投網等を用いて水生生物を採捕するとともに、漁業協同組合等関係機関への聞き取り及び既存文献調査による生息状況調査を別途実施した。

2. 調査結果

(1) 河川

県内河川の概要は以下のとおりである。

ア. 水温分布

過去3年間（H19～H21年度）の年平均値の最小値は14.1℃、最大値は19.3℃に分布している。

イ. 全亜鉛の分布

過去3年間（H19～H21年度）の年平均値の最小値は<0.003mg/L、最大値は0.19mg/Lに分布している。

過去3年間の年平均値を環境基準（0.03mg/L）と比較すると次のことが判明した。

- ① 54河川中48河川で環境基準を満たしているが、利根運河、新坂川、国分川、春木川、真間川及び桑納川の6河川において環境基準を超過している。
- ② 新坂川、真間川の2河川はH20年度において環境基準を超過したが、その他の年度は環境基準を満たしている。
- ③ 国分川、春木川の2河川はH19、H20年度において環境基準を超過しているが、環境基準値と同等の値で推移しており、H21年度は環境基準を満たしている。
- ④ 利根運河、桑納川の2河川は過去3年間継続して環境基準を超過している。

国が実施した調査によると、亜鉛は次のような汚染原因や特性を有していることが判明した。

- ① 亜鉛を含む排水の排出源が事業場のみならず多岐にわたっている。
- ② 中小河川に排水が集中する時、環境基準を超過する傾向がある。

環境基準を超過した 6 河川について調査等を行った結果、次のことが判明した。

- ① 春木川、真間川は亜鉛の排出源となる事業場がなく、周辺地域の排水等が流れてくる河川である。
- ② その他 4 河川については、亜鉛の排出源となる事業場はあるものの、排水基準値超過事業場がなく、排水中の亜鉛濃度も排水基準値をはるかに下回っており、周辺地域の排水等が流れてくる河川である。

以上から、事業場及び生活系を含む排水の影響など多様な原因が考えられるが、超過原因は不明である。

ウ. 魚類の生息状況

関係機関へ照会したほか、投網等による生息状況調査及び関係団体への聞き取り調査を行った結果、コイ、フナその他、ウナギ、ナマズ、オイカワ等の温水性の魚類が生息していることが確認された。

なお、小櫃川及び養老川において冷水性魚類であるニジマスが生息情報があるが、高滝ダム貯水池及び亀山ダム貯水池の放流魚と推測される。

また、9 河川（坂川、夷隅川、長尾川、湊川、小糸川、小櫃川、御腹川、養老川及び海老川）においてアユ（※）の生息情報がある。

※アユ及びワカサギについては、冷水性魚類としての扱いが検討された経緯があるが、水温の適応範囲が広いこと及び生息分布の情報を踏まえると、水域類型の分類に当たっての活用が難しいとされ、その生息状況について把握しておくことが望ましいとされている。

エ. 特別域について

現在、県内河川において、水産資源保護法に基づく保護水面の指定はない。

また、関係機関への照会の結果、これと同等以上に保護が図られている水域がないなど、現時点では特別域の当てはめの検討に足る情報はない。

(2) 湖沼

県内湖沼の概要は以下のとおりである。

ア. 水温分布

過去3年間(H19~H21年度)の年平均値の最小値は15.7℃、最大値は18.0℃に分布している。

イ. 全亜鉛の分布

県内4湖沼の過去3年間(H19~H21年度)の年平均最小値は0.003mg/L、最大値は0.011mg/Lで分布しており、環境基準を満たしている。

ウ. 魚類の生息状況

関係機関へ照会した結果、印旛沼・手賀沼ではコイ、フナその他、ウナギ、ナマズ、オイカワ等の温水性の魚類が多数生息していることが確認されたほか、ワカサギ(※)の放流が行われていること及びサケの生息が確認された。

高滝ダム貯水池及び亀山ダム貯水池においては、ワカサギ(※)、ニジマスの放流が行われていることから、これらの生息が確認された。

※アユ及びワカサギについては、冷水性魚類としての扱いが検討された経緯があるが、水温の適応範囲が広いこと及び生息分布の情報を踏まえると、水域類型の分類に当たっての活用が難しいとされ、その生息状況について把握しておくことが望ましいとされている。

エ. 特別域について

現在、県内湖沼において、水産資源保護法に基づく保護水面の指定はない。

また、関係機関への照会の結果、これと同等以上に保護が図られている水域がないなど、現時点では特別域の当てはめの検討に足る情報はない。

類型指定対象水域(河川)における水質データ(年平均値)

No	水域名	測定地点名	地点 番号	全亜鉛(単位:mg/L)			水温(単位:℃)		
				19年度	20年度	21年度	19年度	20年度	21年度
1	利根運河	運河橋	10	0.19	0.090	0.10	18.6	17.0	17.5
2	坂川	弁天橋	12	0.009	0.019	0.009	17.1	17.5	16.7
3	新坂川	さかね橋	14	0.010	0.038	0.009	17.0	17.1	16.5
4	国分川	須和田橋	17	0.058	0.035	0.024	18.2	17.9	17.7
5	春木川	国分川合流前	18	0.038	0.036	0.021	18.7	17.9	17.8
6	真間川	三戸前橋	20	0.019	0.033	0.015	18.0	18.0	17.6
7	亀成川	亀成橋	30	0.007	0.011	0.011	17.9	16.5	16.6
8	金山落	名内橋	31	0.010	0.010	0.016	17.6	16.3	16.2
9	大津川	上沼橋	33	0.017	0.014	0.011	17.1	17.0	16.9
10	大堀川	北柏橋	34	0.028	0.013	0.011	17.0	16.8	16.6
11	鹿島川	鹿島橋	37	0.008	0.006	0.008	17.7	17.1	16.8
12	高崎川	竜灯橋	38	0.007	0.007	0.009	17.5	17.2	16.7
13	手繰川	無名橋	39	0.007	0.007	0.009	16.7	17.3	16.0
14	師戸川	師戸橋	40	0.005	0.005	0.011	17.3	17.6	16.3
15	神崎川	神崎橋	41	0.008	0.008	0.011	17.0	16.8	16.5
16	桑納川	桑納橋	42	0.18	0.15	0.10	16.2	16.3	15.9
17	印旛放水路	八千代橋	43	0.028	0.029	0.029	17.4	17.5	17.0
		新花見川橋	121	0.011	0.009	0.009	18.1	18.1	18.0
18	長門川	長門橋	44	0.006	0.006	0.009	17.9	17.5	16.5
19	根木名川	新川水門	47	0.008	0.014	0.009	16.7	17.0	16.5
20	大須賀川	黄金橋	50	0.007	0.007	0.007	17.6	17.5	16.8
21	小野川	小野川水門	53	0.006	0.008	0.008	17.3	17.4	17.0
22	黒部川	黒部川水門	56	0.006	0.006	0.008	17.7	17.7	17.0
23	清水川	清水橋	58	0.005	0.006	0.006	17.0	16.8	16.3
24	高田川	白石取水場	60	0.006	0.006	0.008	14.5	14.9	15.2
25	新川	駒込堰	63	0.011	0.011	0.016	17.5	16.1	17.5
26	栗山川	木戸大橋	66	0.008	0.008	0.012	17.3	16.3	17.7
27	高谷川	与平橋	67	0.006	0.006	0.008	17.5	15.5	16.5
28	木戸川	木戸橋	69	0.006	0.008	0.009	16.6	15.7	16.7
29	作田川	龍宮大橋	70	0.007	0.006	0.008	17.0	16.2	17.5
30	真亀川	真亀橋	72	0.005	0.006	0.008	18.1	16.7	18.1
31	南白亀川	観音堂橋	73	0.004	0.005	0.004	18.2	16.4	18.2
32	一宮川	中之橋	76	0.007	0.010	0.004	18.7	17.0	18.2
33	夷隅川	江東橋	80	0.003	0.006	0.004	18.0	18.3	17.8
34	二夕間川	坂本	81	0.005	0.004	0.006	14.2	15.0	14.1
35	袋倉川	まるまん橋	82	0.005	0.004	0.005	14.5	15.0	14.8
36	待崎川	横渚取水口	83	0.006	0.006	0.009	17.3	16.9	16.5
37	加茂川	加茂川橋	85	0.008	0.007	0.003	18.8	19.1	18.2
38	三原川	三原橋	86	0.011	0.007	0.009	17.3	17.2	16.2
39	丸山川	朝夷橋	88	0.010	0.006	0.009	18.1	17.3	16.3
40	瀬戸川	瀬戸川橋	89	0.008	0.006	0.009	17.2	16.9	16.5
41	長尾川	上水道取水口	91	0.005	0.004	0.006	14.7	14.7	14.6
42	汐入川	要橋	93	0.006	0.008	0.007	17.4	18.1	18.1
43	平久里川	平成橋	95	0.007	0.009	0.010	17.5	17.8	18.0
44	増間川	池田橋	96	0.004	0.005	0.007	15.1	14.2	14.8
45	湊川	湊橋	99	0.004	0.006	0.003	17.4	16.8	16.5
46	染川	川向橋	102	0.006	0.006	0.007	15.9	15.5	15.9
47	小糸川	人見橋	105	0.004	0.007	0.005	17.4	17.0	16.9
48	小櫃川	小櫃橋	110	0.006	0.005	0.008	18.0	17.6	17.5
49	御腹川	御腹川橋	112	0.004	0.003	0.009	16.0	15.6	15.3
50	養老川	養老大橋	115	0.006	0.007	0.005	17.6	17.9	18.5
51	村田川	新村田橋	118	0.008	0.009	0.009	15.7	16.5	16.7
52	都川	都橋	119	0.005	0.006	0.005	15.2	14.7	15.5
53	葭川	日本橋	120	0.019	0.017	0.010	15.8	15.1	15.7
54	海老川	八千代橋	122	0.012	0.024	0.013	19.3	18.3	18.2

注1 全亜鉛の環境基準は0.03mg/L

2 着色箇所は環境基準を超過した地点

類型指定対象水域(河川)における水質データ(年平均値及び75%値)

No	水域名	測定地点名	地点 番号	BOD75%値(単位:mg/L)			DO(単位:mg/L)		
				19年度	20年度	21年度	19年度	20年度	21年度
1	利根運河	運河橋	10	8.3	5.1	6.9	7.4	6.7	6.9
2	坂川	弁天橋	12	5.1	7.0	2.8	7.1	7.4	6.7
3	新坂川	さかね橋	14	3.7	3.8	5.5	6.2	7.4	5.9
4	国分川	須和田橋	17	9.5	9.2	11	3.0	4.0	3.3
5	春木川	国分川合流前	18	15	12	12	2.8	4.0	3.1
6	真間川	三戸前橋	20	7.0	7.1	6.2	5.3	3.8	5.1
7	亀成川	亀成橋	30	2.8	2.3	1.8	8.4	8.4	8.6
8	金山落	名内橋	31	3.1	2.0	2.3	9.5	9.5	9.6
9	大津川	上沼橋	33	3.8	3.6	3.0	8.8	8.8	8.5
10	大堀川	北柏橋	34	4.2	4.2	3.0	7.8	8.4	8.5
11	鹿島川	鹿島橋	37	1.7	1.8	1.7	8.7	8.8	8.6
12	高崎川	竜灯橋	38	1.8	2.5	1.7	10	9.8	9.6
13	手繰川	無名橋	39	1.5	1.9	1.3	9.9	10	10
14	師戸川	師戸橋	40	1.9	2.0	2.1	8.3	8.5	8.3
15	神崎川	神崎橋	41	3.4	3.8	3.1	9.8	9.0	8.9
16	桑納川	桑納橋	42	4.9	3.8	3.9	6.0	6.7	6.6
17	印旛放水路	八千代橋	43	6.5	5.3	5.7	10	12	11
		新花見川橋	121	2.6	2.0	2.1	7.2	7.4	8.1
18	長門川	長門橋	44	6.7	4.9	5.1	11	9.4	9.3
19	根木名川	新川水門	47	3.1	2.5	3.6	10	8.5	8.8
20	大須賀川	黄金橋	50	4.5	3.4	3.3	9.0	8.1	8.1
21	小野川	小野川水門	53	2.4	2.4	2.3	8.0	7.7	7.8
22	黒部川	黒部川水門	56	5.1	3.7	2.0	12	9.6	9.4
23	清水川	清水橋	58	1.5	2.4	1.9	9.4	9.2	9.2
24	高田川	白石取水場	60	1.7	2.7	1.6	9.2	9.2	9.2
25	新川	駒込堰	63	8.0	5.2	7.5	8.0	6.8	7.4
26	栗山川	木戸大橋	66	2.9	2.8	2.3	8.8	8.2	7.8
27	高谷川	与平橋	67	1.6	2.1	1.4	9.4	9.4	9.0
28	木戸川	木戸橋	69	2.9	2.9	2.5	7.7	7.8	7.8
29	作田川	龍宮大橋	70	2.9	2.5	2.5	8.6	8.8	8.7
30	真亀川	真亀橋	72	3.4	3.0	3.9	6.7	6.6	6.3
31	南白亀川	観音堂橋	73	4.0	2.8	4.1	7.0	7.1	6.2
32	一宮川	中之橋	76	2.5	3.1	2.3	5.9	6.4	6.3
33	夷隅川	江東橋	80	2.7	3.3	1.1	9.1	8.5	8.1
34	二夕間川	坂本	81	0.5	0.9	0.5	10	10	9.8
35	袋倉川	まるまん橋	82	0.6	1.1	0.7	11	11	11
36	待崎川	横渚取水口	83	2.3	1.3	1.3	9.7	9.3	10
37	加茂川	加茂川橋	85	1.6	1.5	2.0	8.0	8.6	8.5
38	三原川	三原橋	86	2.1	1.8	1.7	9.3	9.6	9.5
39	丸山川	朝夷橋	88	2.3	1.9	2.2	9.7	10	10
40	瀬戸川	瀬戸川橋	89	1.7	2.0	1.4	7.8	8.2	8.2
41	長尾川	上水道取水口	91	0.6	0.9	0.6	9.1	9.3	9.3
42	汐入川	要橋	93	4.8	3.5	2.9	6.4	7.3	7.9
43	平久里川	平成橋	95	2.6	1.7	2.1	8.4	9.4	9.1
44	増間川	池田橋	96	0.8	0.8	0.9	10	10	10
45	湊川	湊橋	99	1.1	0.9	1.2	7.9	8.6	8.2
46	染川	川向橋	102	1.4	1.5	1.9	9.1	9.6	9.6
47	小糸川	人見橋	105	1.9	1.3	1.2	7.3	7.5	7.6
48	小櫃川	小櫃橋	110	1.8	1.8	1.9	8.8	9.5	8.4
49	御腹川	御腹川橋	112	1.4	1.4	1.4	9.3	9.4	9.3
50	養老川	養老大橋	115	2.6	2.8	2.5	8.0	9.5	8.4
51	村田川	新村田橋	118	1.9	1.3	1.6	8.4	9.0	8.8
52	都川	都橋	119	1.3	1.3	1.0	7.7	7.8	7.7
53	葭川	日本橋	120	5.0	6.9	6.6	4.9	5.0	5.1
54	海老川	八千代橋	122	4.6	5.3	4.0	4.4	5.4	5.2

類型指定対象水域(湖沼)における水質データ(年平均値及び75%値)

No	水域名	測定地点名	地点 番号	全亜鉛(単位:mg/L)			水温(単位:℃)		
				19年度	20年度	21年度	19年度	20年度	21年度
1	印旛沼	上水道取水口下	2	0.007	0.006	0.011	17.8	17.5	16.7
2	手賀沼	手賀沼中央	6	0.006	0.009	0.011	18.0	17.3	16.9
3	高滝ダム貯水池	加茂橋下流部	10	0.004	0.005	0.003	16.5	16.8	17.5
4	亀山ダム貯水池	堤体直上流部	13	0.006	0.005	0.005	15.7	15.7	16.0

No	水域名	測定地点名	地点 番号	COD75%値(単位:mg/L)			DO(単位:mg/L)		
				19年度	20年度	21年度	19年度	20年度	21年度
1	印旛沼	上水道取水口下	2	12	9.6	9.8	12	12	12
2	手賀沼	手賀沼中央	6	9.7	9.1	10	13	12	12
3	高滝ダム貯水池	加茂橋下流部	10	6.6	6.5	6.5	9.8	9.8	11
4	亀山ダム貯水池	堤体直上流部	13	6.7	6.7	7.3	6.6	7.0	7.0

注 全亜鉛の環境基準は0.03mg/L

【 河 川 】

【利根運河】

		No:1						地点番号：10	
項目								備考	
河川概況	流況：1890年に開削された利根川から江戸川をつなぐ運河 指定延長：6.8km（指定区間0km、指定区間外6.8km） 流域面積：33.1km ²								
水域区分	利根運河								
水質類型指定	B								
環境基準点	運河橋								
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定	
	水温（℃）	18.6		17.0		17.5			
	全亜鉛（mg/L）	0.19	×	0.09	×	0.10	×		
	BOD75%値（mg/L）	8.3	×	5.1	×	6.9	×		
	pH	7.7	○	7.6	○	7.5	○		
	DO（mg/L）	7.4	○	6.7	○	6.9	○		
	SS（mg/L）	19	○	22	○	19	○		
	流量（m ³ /S）	-		-		0.47			
水深（m）	0.28		0.36		0.24				
排水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	有								
魚類の生息状況	コイ、フナ属、タイリクバラタナゴ、ハス、オイカワ、モツコ、タモコ、ツチキ、ドジョウ、カダヤシ、メダカ、ジュズカサ								
漁業権	無								
採捕権	無								
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無					幼稚仔生息場	無	
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト、砂							
	河岸材料	土、人工材料（コンクリートブロック等）							
	堰・ダム等								

河川図

上流（利根川）

◎ 河口（江戸川）

運河橋

（凡例）堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

利根運河の平均水温は17.0～18.6℃であり、水質状況はpH、DO及びSSは過去3年間環境基準に適合しているが、BODは環境基準に適合していない。

魚類は、オイカワ、コイ、ドジョウ等の温水性魚類が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

当該水域の全亜鉛が過去3年間継続して環境基準を超過していることから調査した結果、亜鉛の排出源となる事業場が確認されたが、排水基準値超過事業場はなく、排水中の亜鉛濃度も排水基準値をはるかに下回っており、周辺地域の排水等が流れてくる河川であることが判明した。

事業場及び生活系を含む排水の影響など多様な原因が考えられるが、超過原因は不明である。

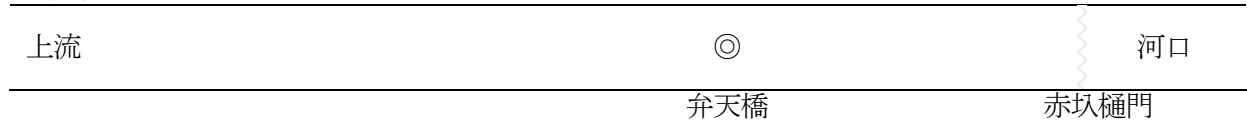
過去3年間継続して全亜鉛が環境基準を超過していることから、達成期間は『5年以内で可及的速やかに達成』とし、環境基準点は『運河橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
利根運河	生物B	○（5年以内で可及的速やかに達成）	運河橋

【坂川】

		No:2	地点番号: 12					
項目	内容			備考				
河川概況	流況: 下総台地を源に市街地を通り、根本地先で新坂川と合流した後、江戸川に合流する河川 指定延長: 15.4 km (指定区間 10.7 km、指定区間外 4.7 km) 流域面積: 19.6 km ²			延長及び流域面積は坂川本川のみ				
水域区分	坂川							
水質類型指定	E							
環境基準点	弁天橋							
水質状況	年度	H19	H20	H21	・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定			
	水温(°C)	17.1	17.5	16.7				
	全亜鉛(mg/L)	0.009	○	0.019		○	0.009	○
	BOD75%値(mg/L)	5.1	○	7.0		○	2.8	○
	pH	7.4	○	7.5		○	7.5	○
	DO(mg/L)	7.1	○	7.4		○	6.7	○
	SS(mg/L)	8	-	8		-	8	-
	流量(m ³ /S)	0.61		0.35			0.43	
水深(m)	2.31		2.25		2.23			
排水水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	モツゴ、カダヤシ、タイリクバラタナゴ、コイ、フナ、ウグイ、オイカワ、ヌマチチブ、アユ、ドジョウ、ボラ、ハス、メダカ							
漁業権	無							
採捕権	有 対象魚種: コイ、フナ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト、砂						
	河岸材料	土、人工材料(コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等							

河川図



(凡例) 堰・ダム等: — 環境基準点: ◎ 現水質類型境界: ~

【類型指定の考え方】

坂川の平均水温は16.7～17.5°Cであり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、オイカワ、コイ、フナ等の温水性魚類が多数生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『弁天橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
坂川	生物B	イ(直ちに達成)	弁天橋

【新坂川】

		No:3	地点番号：14					
項目		内容						備考
河川概況		流況：坂川放水路から分派し市街地を流れ坂川に合流する河川 指定延長：6.0Km 流域面積：12.8Km ²						
水域区分		新坂川						
水質類型指定		E						
環境基準点		さかね橋						
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	17.0		17.1		16.5		
	全亜鉛(mg/L)	0.010	○	0.038	×	0.009	○	
	BOD75%値(mg/L)	3.7	○	3.8	○	5.5	○	
	pH	7.4	○	7.6	○	7.4	○	
	DO(mg/L)	6.2	○	7.4	○	5.9	○	
	SS(mg/L)	8	-	6	-	8	-	
	流量(m ³ /S) 水深(m)	0.95 0.76		0.93 0.72		0.89 0.72		
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		無						
魚類の生息状況		モツゴ、スゴモロコ、カダヤシ、コイ、フナ						
漁業権		無						
採捕権		無						
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無 幼稚仔生息場 無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	人工材料(コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等	堰2ヶ所						

河川図

上流		◎	河口
ラバー堰	ラバー堰	さかね橋	

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

新坂川の平均水温は16.5～17.1℃であり、水質状況はH20年度的全亜鉛を除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、コイ、フナ等の温水性魚類が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

当該水域的全亜鉛が過去3年間の内1年間環境基準を超過していることから調査した結果、亜鉛の排出源となる事業場が確認されたが、排水基準値超過事業場はなく、排水中の亜鉛濃度も排水基準値をはるかに下回っており、周辺地域の排水等が流れてくる河川であることが判明した。

事業場及び生活系を含む排水の影響など多様な原因が考えられるが、超過原因は不明である。

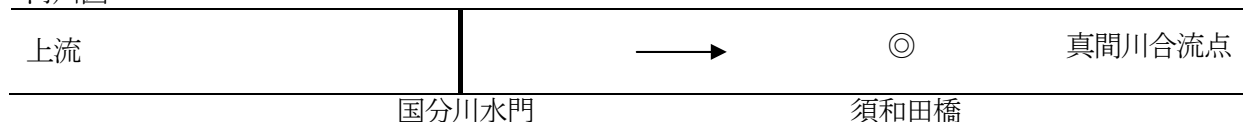
全亜鉛が環境基準を超過しているが環境基準と同等の結果で推移していることから、達成期間は『直ちに達成』とし、環境基準点は『さかね橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
新坂川	生物B	イ(直ちに達成)	さかね橋

【国分川】

		No:4	地点番号：17					
項目		内容						備考
河川概況		流況：市街化の進む台地に源を發し，市街地を流れ，真間川本川に合流する。 指定延長：5. 5 6 Km 流域面積：3 0. 8 Km2						
水域区分		国分川						
水質類型指定		E						
環境基準点		須和田橋						
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温（℃）	18. 2		17. 9		17. 7		
	全亜鉛（mg/L）	0. 058	×	0. 035	×	0. 024	○	
	BOD75%値（mg/L）	9. 5	○	9. 2	○	11	×	
	pH	7. 4	○	7. 4	○	7. 4	○	
	DO（mg/L）	3. 0	○	4. 0	○	3. 3	○	
	SS（mg/L）	6	-	6	-	5	-	
	流量（m3/S）	0. 97		1. 28		0. 90		
	水深（m）	-		-		-		
排水水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		有						
魚類の生息状況		ギンブナ、コイ、ボラ、ウグイ						
漁業権		無						
採捕権		無						
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無		幼稚仔生息場 無				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト						
	河岸材料	人工材料（コンクリートブロック等）						
	堰・ダム等	水門1箇所（洪水時のみ閉鎖）						

河川図



（凡例）堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

国分川の平均水温は17.7～18.2℃であり、水質状況はH19、H20年度の全亜鉛及びH21年度のBODを除く全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、ギンブナ、コイ、ボラ等の温水性魚類が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

当該水域の全亜鉛が過去3年間の内2年間環境基準を超過していることから調査した結果、亜鉛の排出源となる事業場が確認されたが、排水基準値超過事業場はなく、排水中の亜鉛濃度も排水基準値をはるかに下回っており、周辺地域の排水等が流れてくる河川であることが判明した。

事業場及び生活系を含む排水の影響など多様な原因が考えられるが、超過原因は不明である。

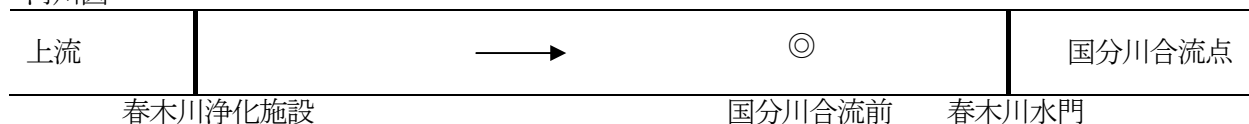
全亜鉛が環境基準を超過しているが環境基準と同等の結果で推移していることから、達成期間は『直ちに達成』とし、環境基準点は『須和田橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
国分川	生物B	イ（直ちに達成）	須和田橋

【春木川】

		No:5						地点番号：18
項目								備考
河川概況	流況：国分川取水点（春木川浄化施設）から市街地を流れ、国分川に合流する。 指定延長：2. 2 Km 流域面積：2. 4 Km ²							
水域区分	春木川							
水質類型指定	E							
環境基準点	国分川合流前							
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温（℃）	18.7		17.9		17.8		
	全亜鉛（mg/L）	0.038	×	0.036	×	0.021	○	
	BOD75%値（mg/L）	15	×	12	×	12	×	
	pH	7.4	○	7.4	○	7.4	○	
	DO（mg/L）	2.8	○	4.0	○	3.1	○	
	SS（mg/L）	7	-	5	-	6	-	
	流量（m ³ /S）	0.15		0.22		0.15		
水深（m）	-		-		-			
排水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	コイ、ボラ、カダヤシ、トウヨシノボリ							
漁業権	無							
採捕権	無							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無					無	
河川・湖沼構造物等	河床材料	シルト						
	河岸材料	人工材料（コンクリートブロック等）						
	堰・ダム等	堰（河川浄化施設）1箇所、水門1箇所（洪水時のみ閉鎖）						

河川図



（凡例）堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

春木川の平均水温は17.8～18.7℃であり、水質状況はpH、DOは過去3年間環境基準に適合しているが、BOD及びH19、H20年度の全亜鉛は環境基準に適合していない。

魚類は、温水性魚類であるコイ、ボラ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

当該水域の全亜鉛が過去3年間の内2年間環境基準を超過していることから調査した結果、亜鉛の排出源となる事業場が無く、周辺地域の排水等が流れてくる河川であることが判明した。

事業場及び生活系を含む排水の影響など多様な原因が考えられるが、超過原因は不明である。

全亜鉛が環境基準を超過しているが環境基準と同等の結果で推移していることから、達成期間は『直ちに達成』とし、環境基準点は『国分川合流前』とする。

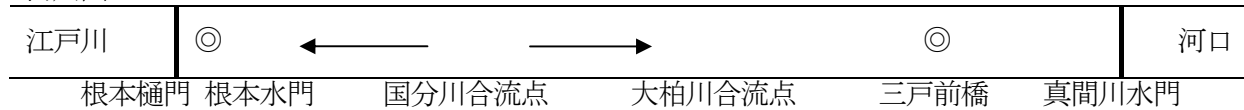
水域名	類型	達成期間	環境基準点
春木川	生物B	イ（直ちに達成）	国分川合流前

【真間川】

No:6 地点番号:20

項目		内容						備考
河川概況		流況：(市街化の進む台地部に源を發し、国分川、春木川等を合流後) 一方は江戸川へ、一方は東京湾に向って人家連たんする市街地を流れる。 指定延長：8.5 Km 流域面積：65.6 Km ²						
水域区分		真間川						
水質類型指定		E						
環境基準点		根本水門			三戸前橋			
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は三戸前橋における過去3年間(H19~H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	18.0		18.0		17.6		
	全亜鉛(mg/L)	0.019	○	0.033	×	0.015	○	
	BOD75%値(mg/L)	7.0	○	7.1	○	6.2	○	
	pH	7.3	○	7.2	○	7.3	○	
	DO(mg/L)	5.3	○	3.8	○	5.1	○	
	SS(mg/L)	7	-	4	-	4	-	
	流量(m ³ /S)	-		-		-		
水深(m)		-		-		-		
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		無						
魚類の生息状況		コイ、ボラ、ウグイ						
漁業権		無						
採捕権		無						
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無		幼稚仔生息場 無				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト						
	河岸材料	人工材料(コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等	水門1箇所(高潮時のみ閉鎖)、樋門1箇所(洪水時のみ閉鎖)						

河川図



(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

真間川の平均水温は17.6~18.0°Cであり、水質状況はH20年度の全亜鉛を除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイ、ボラが生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

当該水域の全亜鉛が過去3年間の内1年間環境基準を超過していることから調査した結果、亜鉛の排出源となる事業場が無く、周辺地域の排水等が流れてくる河川であることが判明した。

事業場及び生活系を含む排水の影響など多様な原因が考えられるが、超過原因は不明である。

全亜鉛が環境基準を超過しているが環境基準と同等の結果で推移していることから、達成期間は『直ちに達成』とし、環境基準点は『三戸前橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
真間川	生物B	イ(直ちに達成)	三戸前橋

【亀成川】

		No:7	地点番号 : 30					
項目	内容						備考	
河川概況	流況：防災調節地から、水田地帯を流れ、手賀川に合流する河川 指定延長：7.15Km 流域面積：16.8Km ²							
水域区分	亀成川							
水質類型指定	B							
環境基準点	亀成橋							
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温（℃）	17.9		16.5		16.6		
	全亜鉛(mg/L)	0.007	○	0.011	○	0.011	○	
	BOD75%値(mg/L)	2.8	○	2.3	○	1.8	○	
	pH	7.9	○	7.9	○	8.0	○	
	DO(mg/L)	8.4	○	8.4	○	8.6	○	
	SS(mg/L)	11	○	9	○	8	○	
	流量(m ³ /S)	0.03		0.02		0.03		
水深(m)	0.85		0.95		0.68			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	スナヤツメ、ヨシノボリ、ブルーギル							
漁業権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、ワカサギ							
採捕権	無							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等							

河川図

上流		◎	河口
鹿黒橋	水神橋	亀成橋	

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

亀成川の平均水温は16.5～17.9℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるヨシノボリが生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『亀成橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
亀成川	生物B	イ(直ちに達成)	亀成橋

【金山落】

項目		内容				No:8	地点番号: 31
		内容				備考	
河川概況		流況：鎌ヶ谷市初富から手賀沼に到る 指定延長：4.4 Km 流域面積：1.8 Km ²					
水域区分		金山落					
水質類型指定		B					
環境基準点		名内橋					
水質 状況	年度	H19		H20		H21	
	水温 (°C)	17.6		16.3		16.2	
	全亜鉛(mg/L)	0.010	○	0.010	○	0.016	○
	BOD75%値(mg/L)	3.1	×	2.0	○	2.3	○
	pH	7.9	○	7.9	○	8.0	○
	DO(mg/L)	9.5	○	9.5	○	9.6	○
	SS(mg/L)	13	○	8	○	9	○
	流量(m ³ /S)	0.34		0.41		0.37	
水深(m)	0.44		0.41		0.42		
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		有					
魚類の生息状況		コイ、フナ					
漁業権		有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、ワカサギ					
採捕権		無					
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 幼稚仔生息場		無 無			
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂					
	河岸材料	土					
	堰・ダム等						

河川図

上流 ◎ 河口

金山落

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

金山落の平均水温は16.2～17.6℃であり、水質状況はH19年度のBODを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイ、フナが生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『名内橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
金山落	生物B	イ (直ちに達成)	名内橋

【高崎川】

No:12

地点番号：38

項目	内容	備考						
河川概況	流況：山間地帯から市街地を流れ鹿島川と合流する河川 指定延長：6.07Km 流域面積：86.7Km ²							
水域区分	高崎川							
水質類型指定	C							
環境基準点	竜灯橋							
水質状況	年度	H19	H20	H21	・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定			
	水温(°C)	17.5	17.2	16.7				
	全亜鉛(mg/L)	0.007	○	0.007		○	0.009	○
	BOD75%値(mg/L)	1.8	○	2.5		○	1.7	○
	pH	8.1	○	8.0		○	8.0	○
	DO(mg/L)	10	○	9.8		○	9.6	○
	SS(mg/L)	7	○	6		○	6	○
	流量(m ³ /S)	1.45		1.56			1.70	
水深(m)	1.05		1.01		1.02			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	有							
魚類の生息状況	スナヤツメ、タモロコ、ドジョウ、シマドジョウ、ニゴイ、コイ、オイカワ、ウナギ、ビワヒガイ、ギバチ、ナマズ、カムルチー、ブルーギル							
漁業権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、ワカサギ							
採捕権	無							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場 無 幼稚仔生息場 無							
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等							

河川図

上流							河口
新堤大橋	長熊大橋	高岡橋	鐺木橋	城南橋	竜灯橋	寺崎橋	

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

高崎川の平均水温は16.7～17.5℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイ、ドジョウ、ナマズ等が多数生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『竜灯橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
高崎川	生物B	イ(直ちに達成)	竜灯橋

【手繰川】

		No:13						地点番号 : 39
項目								備考
河川概況	流況：上手繰川から、水田地帯を流れ西印旛沼に注ぐ河川 指定延長：2.77Km 流域面積：30.07Km ²							
水域区分	手繰川							
水質類型指定	C							
環境基準点	無名橋							
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	16.7		17.3		16.0		
	全亜鉛(mg/L)	0.007	○	0.007	○	0.009	○	
	BOD75%値(mg/L)	1.5	○	1.9	○	1.3	○	
	pH	8.0	○	8.1	○	8.1	○	
	DO(mg/L)	9.9	○	10	○	10	○	
	SS(mg/L)	5	○	4	○	5	○	
	流量(m ³ /S)	0.18		0.31		0.38		
水深(m)	0.54		0.49		0.51			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	タイリクバラタナゴ、モツゴ、オイカワ、ドジョウ、シマドジョウ、タモロコ、カダヤシ、ブルーギル、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブ、ニゴイ							
漁業権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、ワカサギ							
採捕権	無							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場 有 対象魚種：モツゴ 幼稚仔生息場 有 対象魚種：モツゴ							
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等							

河川図

上流	◎	河口
手繰橋	無名橋	新先崎橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

手繰川の平均水温は16.0～17.3℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるオイカワ、ドジョウ等が多数生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『無名橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
手繰川	生物B	イ(直ちに達成)	無名橋

【師戸川】

		No:14	地点番号：40					
項目	内容						備考	
河川概況	流況：造谷川から、水田地帯を流れ西印旛沼に合流する河川 指定延長：6.69Km 流域面積：15.05Km ²							
水域区分	師戸川							
水質類型指定	B							
環境基準点	師戸橋							
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温（℃）	17.3		17.6		16.3		
	全亜鉛(mg/L)	0.005	○	0.005	○	0.011	○	
	BOD75%値(mg/L)	1.9	○	2.0	○	2.1	○	
	pH	7.9	○	8.0	○	7.9	○	
	DO(mg/L)	8.3	○	8.5	○	8.3	○	
	SS(mg/L)	10	○	8	○	10	○	
	流量(m ³ /S)	0.01		0.06		0.00		
水深(m)	0.98		0.98		0.97			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	タモロコ、モツゴ、メダカ、オオクチバス、トウヨシノボリ、ヌマチチブ							
漁業権	無							
採捕権	無							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	有	対象魚種：生息魚					
	幼稚仔生息場	有	対象魚種：生息魚					
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等							

河川図

上流		◎ 河口
造谷橋		師戸橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

師戸川の平均水温は16.3～17.6℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるヨシノボリ等が多数生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『師戸橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
師戸川	生物B	イ (直ちに達成)	師戸橋

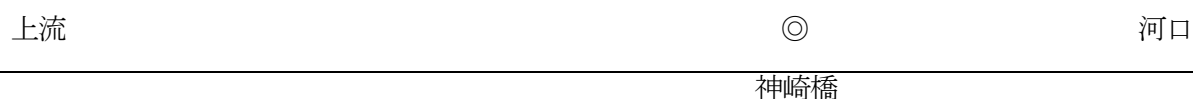
【神崎川】

No:15

地点番号：41

項目		内容						備考
河川概況		流況：白井市を上流とし、印旛放水路に合流する河川 指定延長：14.56Km 流域面積：56.0Km ²						
水域区分		神崎川						
水質類型指定		A						
環境基準点		神崎橋						
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	17.0		16.8		16.5		
	全亜鉛(mg/L)	0.008	○	0.008	○	0.011	○	
	BOD75%値(mg/L)	3.4	×	3.8	×	3.1	×	
	pH	8.1	○	8.0	○	8.0	○	
	DO(mg/L)	9.8	○	9.0	○	8.9	○	
	SS(mg/L)	10	○	10	○	10	○	
	流量(m ³ /S)	0.00		0.63		0.10		
水深(m)	1.56		1.60		1.53			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		無						
魚類の生息状況		メダカ、モツゴ、タモロコ、スゴモロコ、ブルーギル、トウヨシノボリ						
漁業権		無						
採捕権		無						
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 幼稚仔生息場		無 無				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等							

河川図



(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

神崎川の平均水温は16.5～17.0℃であり、水質状況はpH、DO、SSは過去3年間環境基準に適合しているが、BODは環境基準に適合していない。

魚類は、温水性魚類であるヨシノボリ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『神崎橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
神崎川	生物B	イ(直ちに達成)	神崎橋

【桑納川】

No:16

地点番号：42

項目		内容						備考
河川概況		流況：船橋市内を上流とし印旛放水路に合流する河川 指定延長：5.40Km 流域面積：26.10Km ²						
水域区分		桑納川						
水質類型指定		D						
環境基準点		桑納橋						
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	16.2		16.3		15.9		
	全亜鉛(mg/L)	0.18	×	0.15	×	0.10	×	
	BOD75%値(mg/L)	4.9	○	3.8	○	3.9	○	
	pH	7.8	○	7.8	○	7.9	○	
	DO(mg/L)	6.0	○	6.7	○	6.6	○	
	SS(mg/L)	6	○	8	○	7	○	
	流量(m ³ /S)	0.14		0.24		0.15		
水深(m)	0.65		0.62		0.66			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		有						
魚類の生息状況		コイ、フナ、モツゴ、ドジョウ、ブルーギル、トウヨシノボリ、ヌマチチブ、ブラックバス						
漁業権		無						
採捕権		無						
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無		幼稚仔生息場 無				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等							

河川図

上流 ◎ 河口

桑納橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

桑納川の平均水温は15.9～16.3℃であり、水質状況は全亜鉛を除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイ、フナ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

当該水域の全亜鉛が過去3年間継続して環境基準を超過していることから調査した結果、亜鉛の排出源となる事業場が確認されたが、排水基準値超過事業場はなく、排水中の亜鉛濃度も排水基準値をはるかに下回っており、周辺地域の排水等が流れてくる河川であることが判明した。

事業場及び生活系を含む排水の影響など多様な原因が考えられるが、超過原因は不明である。

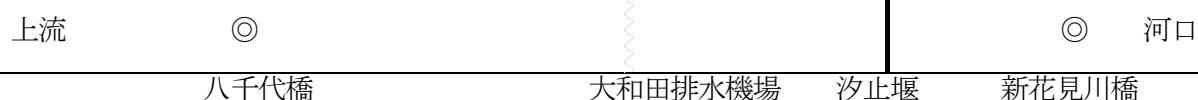
過去3年間継続して全亜鉛が環境基準を超過していることから、達成期間は『5年以内で可及的速やかに達成』とし、環境基準点は『桑納橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
桑納川	生物B	口(5年以内で可及的速やかに達成)	桑納橋

【印旛放水路】

		No:17				地点番号:43 地点番号:121		
項目		内容						備考
河川概況		流況:印旛沼と東京湾を結ぶ放水路 指定延長:21.82Km 流域面積:169.70Km2						
水域区分		印旛放水路(上流)			印旛放水路(下流)			
水質類型指定		C						
環境基準点		八千代橋			新花見川橋			
水質 状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は八千代橋における過去3年間(H19~H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	17.4		17.5		17.0		
	全亜鉛(mg/L)	0.028	○	0.029	○	0.029	○	
	BOD75%値(mg/L)	6.5	×	5.3	×	5.7	×	
	pH	8.2	○	8.2	○	8.3	○	
	DO(mg/L)	10	○	12	○	11	○	
	SS(mg/L)	17	○	14	○	17	○	
	流量(m3/S)	0.00		-1.18		0.00		
水深(m)	3.26		3.21		3.24			
水質 状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は新花見川橋における過去3年間(H19~H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	18.1		18.1		18.0		
	全亜鉛(mg/L)	0.011	○	0.009	○	0.009	○	
	BOD75%値(mg/L)	2.6	○	2.0	○	2.1	○	
	pH	7.9	○	7.9	○	7.9	○	
	DO(mg/L)	7.2	○	7.4	○	8.1	○	
	SS(mg/L)	11	○	8	○	9	○	
	流量(m3/S)	6.57		1.63		5.92		
水深(m)	2.67		2.44		2.69			
排水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		有			有			
魚類の生息状況		トウヨシノボリ、ヌマチチブ、ブルーギル、ウナギ、コイ、ドジョウ、ナマズ等			スズキ、ボラ、メダカ、ブルーギル			
漁業権		有 対象魚種:コイ、フナ、ウナギ、ワカサギ			無			
採捕権		無			有 対象魚種:コイ、フナ、ウナギ、シラスウナギ			
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無 幼稚仔生息場 無		産卵場 無 幼稚仔生息場 無				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土			土、人工材料(コンクリートブロック等)			
	堰・ダム等				堰1箇所			

河川図



(凡例) 堰・ダム等: — 環境基準点: ◎ 現水質類型境界: ~

【類型指定の考え方】

印旛放水路の平均水温は17.0～18.1℃であり、水質状況は上流域のBODを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水製魚類であるウナギ、ヨシノボリ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がな
いことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達
成』とし、環境基準点は『八千代橋』及び『新花見川橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
印旛放水路	生物B	イ（直ちに達成）	八千代橋、新花見川橋

【長門川】

		No:18						地点番号：44	
項目								備考	
河川概況	流況：北印旛沼より、水田地帯、市街地を流れ、利根川に注ぐ河川 指定延長：5.14 Km 流域面積：540.0Km ²								
水域区分	長門川								
水質類型指定	B								
環境基準点	長門橋								
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定	
	水温（℃）	17.9		17.5		16.5			
	全亜鉛（mg/L）	0.006	○	0.006	○	0.009	○		
	BOD75%値（mg/L）	6.7	×	4.9	×	5.1	×		
	pH	8.2	○	8.1	○	8.2	○		
	DO（mg/L）	11	○	9.4	○	9.3	○		
	SS（mg/L）	27	×	27	×	24	○		
	流量（m ³ /S）	0.00		-10.88		0.00			
水深（m）	1.81		1.84		1.76				
排水水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無								
魚類の生息状況	ウナギ、ワカサギ、シラウオ、サケ、タイリクバラタナゴ、ツチフキ、ニゴイ、タモロコ、スゴモロコ、モツゴ、ウグイ、オイカワ、ハス、ワタカ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、コイ、チャネルキャットフィッシュ、ボラ、カムルチャー、オオクチバス、ブルーギル、トウヨシノボリ、ヌマチチブ、ジュズカケハゼ、アシシロハゼ、ウキゴリ、ビワヒガイ、マルタ、ハクレン、クルマサヨリ、スズキ、ギンガメアジ、マハゼ、フナ、タナゴ								
漁業権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、ワカサギ								
採捕権	無								
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場 有 対象魚種：生息魚 幼稚仔生息場 有 対象魚種：生息魚								
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト							
	河岸材料	土							
	堰・ダム等								

河川図

上流		◎ 河口
酒直水門	長門橋	

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

長門川の平均水温は16.5～17.9℃であり、水質状況は全亜鉛、pH、DOは過去3年間環境基準に適合しているが、BOD、H19及びH20年度のSSは環境基準に適合していない。

魚類は、温水性魚類であるウナギ、コイ、フナ等が多数生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『長門橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
長門川	生物B	イ（直ちに達成）	長門橋

【根木名川】

		No:19	地点番号: 47					
項目	内容			備考				
河川概況	流況：北総台地を發し空港・市街地からの支川を集め利根川本川に合流する河川。 指定延長：16.19Km 流域面積：86.82Km ²							
水域区分	根木名川							
水質類型指定	B							
環境基準点	新川水門							
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	16.7		17.0		16.5		
	全亜鉛(mg/L)	0.008	○	0.014	○	0.009	○	
	BOD75%値(mg/L)	3.1	×	2.5	○	3.6	×	
	pH	7.9	○	7.7	○	7.8	○	
	DO(mg/L)	10	○	8.5	○	8.8	○	
	SS(mg/L)	12	○	14	○	12	○	
	流量(m ³ /S)	0.00		0.76		0.00		
水深(m)	2.82		2.80		2.80			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	コイ、ボラ、モツゴ、オイカワ							
漁業権	無							
採捕権	有 対象魚種：コイ、フナ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト、砂						
	河岸材料	土、人工材料(コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等							

河川図

上流

◎ 河口

新川水門

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

根木名川の平均水温は16.5～17.0°Cであり、水質状況はH19、H21年度のBODを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイ、オイカワ、ボラ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『新川水門』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
根木名川	生物B	イ(直ちに達成)	新川水門

【黒部川】

No:22

地点番号：56

項目		内容						備考
河川概況		流況：田園地帯から市街地内を流れ、利根川に合流する。 指定延長：18.10Km 流域面積：102.6Km ²						
水域区分		黒部川上流			黒部川下流			
水質類型指定		B			A			
環境基準点		中央大橋			黒部川水門			
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は黒部川水門における過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	17.7		17.7		17.0		
	全亜鉛(mg/L)	0.006	○	0.006	○	0.008	○	
	BOD75%値(mg/L)	5.1	×	3.7	×	2.0	○	
	pH	8.5	○	8.0	○	8.0	○	
	DO(mg/L)	12	○	9.6	○	9.4	○	
	SS(mg/L)	17	○	11	○	9	○	
	流量(m ³ /S)	1.99		3.68		0.00		
水深(m)	3.94		3.87		3.91			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		無						
魚類の生息状況		コイ、フナ、カムルチー			コイ、フナ、ボラ、ハゼ、スズキ、アメリカナマズ、ドジョウ			
漁業権		無						
採捕権		有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ			有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、シラスウナギ			
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無 幼稚仔生息場 無			産卵場 無 幼稚仔生息場 無			
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等							

河川図

上流			◎				◎ 河口
迎田橋 睦橋 日之橋 中央大橋 小堀川合流点 黒部大橋 笹川新橋 菰敷橋 黒部川水門 (凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～							

【類型指定の考え方】

黒部川の平均水温は17.0～17.7℃であり、水質状況はH19、H20年度のBODを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。
 魚類は、温水性魚類であるコイ、フナ、ボラ等が生息している。
 水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。
 水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。
 達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『黒部川水門』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
黒部川	生物B	イ (直ちに達成)	黒部川水門

【清水川】

		No:23	地点番号：58					
項目	内容						備考	
河川概況	流況：田園地帯を流れ黒部川へ合流する。 指定延長：2. 8 3 Km 流域面積：8. 3 Km ²							
水域区分	清水川							
水質類型指定	A							
環境基準点	清水橋							
水質 状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温（℃）	17.0		16.8		16.3		
	全亜鉛(mg/L)	0.005	○	0.006	○	0.006	○	
	BOD75%値(mg/L)	1.5	○	2.4	×	1.9	○	
	pH	7.9	○	7.9	○	7.9	○	
	DO(mg/L)	9.4	○	9.2	○	9.2	○	
	SS(mg/L)	10	○	8	○	11	○	
	流量(m ³ /S)	0.28		0.28		0.33		
水深(m)	0.71		0.56		0.47			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	ギンブナ、モツゴ、タモロコ、メダカ、ブルーギル、ウキゴリ、マハゼ、トウヨシノボリ							
漁業権	無							
採捕権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場		無					
	幼稚仔生息場		無					
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等							

河川図

上流 ◎ 河口

清水橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

清水川の平均水温は16.3～17.0℃であり、水質状況はH20年度のBODを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるフナ、ヨシノボリ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『清水橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
清水川	生物B	イ(直ちに達成)	清水橋

【高田川】

		No.:24	地点番号 : 60					
項目	内容						備考	
河川概況	流況 : 利根川との合流点から銚子市三門町152 (無名橋) まで 指定延長 : 2.5 Km 流域面積 : 10.7 Km ²							
水域区分	高田川							
水質類型指定	A							
環境基準点	白石取水場							
水質 状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	14.5		14.9		15.2		
	全亜鉛(mg/L)	0.006	○	0.006	○	0.008	○	
	BOD75%値(mg/L)	1.7	○	2.7	×	1.6	○	
	pH	7.9	○	7.9	○	8.0	○	
	DO(mg/L)	9.2	○	9.2	○	9.2	○	
	SS(mg/L)	11	○	10	○	10	○	
	流量(m ³ /S)	0.17		0.17		0.25		
水深(m)	0.49		0.59		0.36			
排水水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	コイ、ギンブナ、キンギョ、タモロコ、メダカ、ブルーギル、トウヨシノボリ							
漁業権	無							
採捕権	無							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	人工材料(コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等							

河川図

上流	◎	河口
白石取水場		

(凡例) 堰・ダム等 : — 環境基準点 : ◎ 現水質類型境界 : ~

【類型指定の考え方】

高田川の平均水温は14.5～15.2℃であり、水質状況はH20年度のBODを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水製魚類であるコイ、ヨシノボリ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『白石取水場』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
高田川	生物B	イ(直ちに達成)	白石取水場

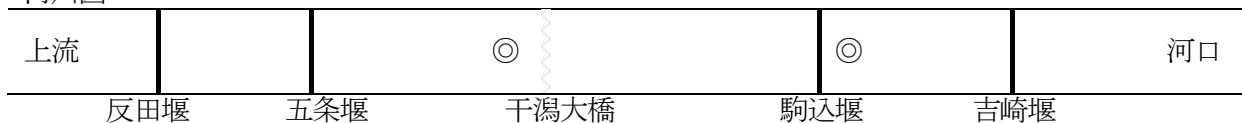
【新川】

No:25

地点番号：63

項目	内容						備考	
河川概況	流況：香取郡東庄町から田園地帯を流下し、途中農業用水に利用され、匝瑳市長谷地先で九十九里海岸に至る。 指定延長：20.42 Km 流域面積：121.0Km ²							
水域区分	新川上流			新川下流				
水質類型指定	C							
環境基準点	干潟大橋			駒込堰				
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は駒込堰における過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	17.5		16.1		17.5		
	全亜鉛(mg/L)	0.011	○	0.011	○	0.016	○	
	BOD75%値(mg/L)	8.0	×	5.2	×	7.5	×	
	pH	8.1	○	7.9	○	8.0	○	
	DO(mg/L)	8.0	○	6.8	○	7.4	○	
	SS(mg/L)	14	○	13	○	13	○	
	流量(m ³ /S)	2.83		5.77		4.59		
水深(m)	0.56		0.68		0.060			
排水水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	有							
魚類の生息状況	コイ、オイカワ			コイ、オイカワ、ウナギ、ボラ				
漁業権	無							
採捕権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ			有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、シラスウナギ				
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場 無 幼稚仔生息場 無			産卵場 有 対象魚種：シラスウナギ 幼稚仔生息場 有 対象魚種：シラスウナギ				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト、砂						
	河岸材料	土、人工材料(コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等	反田堰	五条堰	干潟大橋	駒込堰	吉崎堰		

河川図



(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

新川の平均水温は16.1～17.5℃であり、水質状況はBODを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイ、オイカワ、ボラ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『駒込堰』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
新川	生物B	イ(直ちに達成)	駒込堰

【栗山川】

No:26 地点番号:66

項目		内容						備考
河川概況		流況：河道は利根川からの疎水路として利水上の役割を担い、4河川を合流し、太平洋に注ぐ河川 指定延長：24.06Km 流域面積：576.8Km ²						
水域区分		栗山川上流			栗山川下流			
水質類型指定		A			B			
環境基準点		新井橋			木戸大橋			
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は木戸大橋における過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(℃)	17.3		16.3		17.7		
	全亜鉛(mg/L)	0.008	○	0.008	○	0.012	○	
	BOD75%値(mg/L)	2.9	○	2.8	○	2.3	○	
	pH	7.9	○	7.7	○	7.8	○	
	DO(mg/L)	8.8	○	8.2	○	7.8	○	
	SS(mg/L)	14	○	13	○	11	○	
	流量(m ³ /S)	8.52		14.90		0.25		
水深(m)	2.27		2.24		2.22			
排水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		有						
魚類の生息状況		ブラックバス、ナマズ、ウナギ、コイ、フナ、ニゴイ、ブルーギル、キャットフィッシュ、シヤケ			コイ、フナ、ウナギ、ドジョウ、ソウギョ			
漁業権		有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ						
採捕権		有 対象魚種：ウナギ			有 対象魚種：シラスウナギ			
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無 幼稚仔生息場 無			産卵場 有 対象魚種：コイ、フナ 幼稚仔生息場 有 対象魚種：コイ、フナ、ボラ			
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト、砂			砂			
	河岸材料	土						
	堰・ダム等	堰1箇所			堰2箇所			

河川図



(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

栗山川の平均水温は16.3～17.7℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるウナギ、ナマズ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『木戸大橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
栗山川	生物B	イ(直ちに達成)	木戸大橋

【高谷川】

		No.:27						地点番号 : 67	
項目								内容	備考
河川概況		流況：水田地帯を流れ栗山川と合流する河川。 指定延長：9.59Km 流域面積：44.4Km ²							
水域区分		高谷川							
水質類型指定		A							
環境基準点		与平橋							
水質 状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定	
	水温（℃）	17.5		15.5		16.5			
	全亜鉛（mg/L）	0.006	○	0.006	○	0.008	○		
	BOD75%値（mg/L）	1.6	○	2.1	×	1.4	○		
	pH	7.9	○	7.8	○	7.9	○		
	DO（mg/L）	9.4	○	9.4	○	9.0	○		
	SS（mg/L）	8	○	8	○	7	○		
	流量（m ³ /S）	0.97		1.18		0.19			
水深（m）	0.58		0.60		0.66				
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		無							
魚類の生息状況		コイ、フナ、ウナギ、ドジョウ							
漁業権		有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ							
採捕権		有 対象魚種：コイ、フナ							
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 有 対象魚種：コイ、フナ		幼稚仔生息場 有 対象魚種：コイ、フナ、ボラ					
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂							
	河岸材料	土							
	堰・ダム等								

河川図

上流

◎ 河口

与平橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

高谷川の平均水温は15.5～17.5℃であり、水質状況はH20年度のBODを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイ、フナ、ウナギ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『与平橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
高谷川	生物B	イ（直ちに達成）	与平橋

【作田川】

		No.:29				地点番号：70		
項目	内容						備考	
河川概況	流況：日向から水田地帯そして成東から九十九里平野を流れ、太平洋に注ぐ河川 指定延長：18.22Km 流域面積：104.3Km ²							
水域区分	作田川							
水質類型指定	A							
環境基準点	龍宮大橋							
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温（℃）	17.0		16.2		17.5		
	全亜鉛（mg/L）	0.007	○	0.006	○	0.008	○	
	BOD75%値（mg/L）	2.9	×	2.5	×	2.5	×	
	pH	7.9	○	7.9	○	8.0	○	
	DO（mg/L）	8.6	○	8.8	○	8.7	○	
	SS（mg/L）	10	○	10	○	11	○	
	流量（m ³ /S）	2.74		4.38		2.90		
水深（m）	2.28		2.59		2.69			
排水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	有							
魚類の生息状況	ヘラブナ、コイ、フナ、ハゼ、シラスウナギ							
漁業権	無							
採捕権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、シラスウナギ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等	堰4ヶ所						

河川図

上流						◎	河口
	成東堰	武射田堰	大中堰	鶴巻堰	龍宮大橋		

（凡例）堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

作田川の平均水温は16.2～17.5℃であり、水質状況はBODを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合しているが、BODは環境基準に適合していない。
 魚類は、温水性魚類であるコイ、フナ等が生息している。
 水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。
 水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。
 達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『龍宮大橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
作田川	生物B	イ（直ちに達成）	龍宮大橋

【真亀川】

No:30

地点番号：72

項目	内容	備考						
河川概況	流況：東金から九十九里平野を流れ、太平洋に注ぐ河川 指定延長：15.40Km 流域面積：82.2Km ²							
水域区分	真亀川							
水質類型指定	C							
環境基準点	真亀橋							
水質状況	年度	H19	H20	H21	・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定			
	水温(°C)	18.1	16.7	18.1				
	全亜鉛(mg/L)	0.005	○	0.006		○	0.008	○
	BOD75%値(mg/L)	3.4	○	3.0		○	3.9	○
	pH	7.8	○	7.8		○	7.8	○
	DO(mg/L)	6.7	○	6.6		○	6.3	○
	SS(mg/L)	16	○	14		○	11	○
	流量(m ³ /S)	2.37		5.70			0.10	
水深(m)	1.93		1.97		1.97			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	有							
魚類の生息状況	ヘラブナ、ナマズ、ハゼ、シラスウナギ、コイ、イナ、ハヤブナ、ブルーギル、メダカ							
漁業権	無							
採捕権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、シラスウナギ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場 無 幼稚仔生息場 無							
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等	堰4ヶ所						

河川図

上流						◎ 河口
	砂押堰	西野堰	小沼田堰	真亀堰		真亀橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

真亀川の平均水温は16.7～18.1℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるナマズ、コイ、フナ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『真亀橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
真亀川	生物B	イ(直ちに達成)	真亀橋

【一宮川】

		No.:32		地点番号：76				
項目		内容				備考		
河川・湖沼概況		流況：長柄町刑部に源を發し、茂原市街地を流れ一宮町で太平洋に注ぐ河川である。 指定延長：30.327Km 流域面積：203.44Km ²						
水域区分		一宮川上流	一宮川中流		一宮川下流			
水質類型指定		B	B		C			
環境基準点		昭和橋	北川橋		中之橋			
水質 状況	年度	H19	H20		H21		・記載数値は中之橋における過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定	
	水温（℃）	18.7	17.0		18.2			
	全亜鉛(mg/L)	0.007	○	0.010	○	0.004		○
	BOD75%値(mg/L)	2.5	○	3.1	○	2.3		○
	pH	7.6	○	7.7	○	7.8		○
	DO(mg/L)	5.9	○	6.4	○	6.3		○
	SS(mg/L)	7	○	13	○	9		○
	流量(m ³ /S)	7.08	17.54		17.81			
水深(m)	3.74	3.39		2.83				
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		有						
魚類の生息状況		コイ、フナ			ハゼ、イナ、セイゴ、カレイ、カイズ			
漁業権		無			有 対象魚種：アオノリ養殖			
採捕権		有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ			有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、シラスウナギ			
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無 幼稚仔生息場 無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	人工材料（コンクリートブロック等）						
	堰・ダム等				堰 1箇所			

河川図



(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

一宮川の平均水温は17.0～18.7℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイ、フナ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『中之橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
一宮川	生物B	イ（直ちに達成）	中之橋

【夷隅川】

		No.:33				地点番号：80		
項目	内容						備考	
河川概況	流況：山間地帯から田園地帯を流れ、太平洋に注ぐ河川 指定延長：65.1Km 流域面積：299.4Km ²							
水域区分	夷隅川上流			夷隅川下流				
水質類型指定	A			B				
環境基準点	三口橋			江東橋				
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は江東橋における過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(℃)	18.0		18.3		17.8		
	全亜鉛(mg/L)	0.003	○	0.006	○	0.004	○	
	BOD75%値(mg/L)	2.7	○	3.3	×	1.1	○	
	pH	7.9	○	7.8	○	7.8	○	
	DO(mg/L)	9.1	○	8.5	○	8.1	○	
	SS(mg/L)	10	○	11	○	9	○	
	流量(m ³ /S)	10.34		18.32		21.11		
水深(m)	2.46		2.06		2.06			
排水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	オイカワ、カマツカ、ニゴイ、スゴモロコ、トウヨシノボリ、コイ、フナ等			ウナギ、コイ、フナ、ウグイ、ハヤ、ボラ類、ハゼ類、スズキ類、ナマズ				
漁業権	有 対象魚種：アユ、コイ、フナ、オイカワ、ウグイ、ウナギ							
採捕権	無			有 対象魚種：シラスウナギ				
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場 無			幼稚仔生息場 無				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	岩		シルト				
	河岸材料	土						
	堰・ダム等				堰1ヶ所, 堰(可動堰)1ヶ所			

河川図

上流 ◎	◎ 河口
三口橋	荻谷堰(可動堰) 潮止堰 江東橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

夷隅川の平均水温は17.8～18.3℃であり、水質状況はH20年度のBODを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるウナギ、ナマズ、コイ等が多数生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『江東橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
夷隅川	生物B	イ(直ちに達成)	江東橋

【二夕間川】

		No.:34	地点番号：81					
項目	内容							備考
河川概況	流況：山間部を流れ太平洋に注ぐ河川 指定延長：5. 6 5 Km 流域面積：7. 3 5 Km ²							
水域区分	二夕間川							
水質類型指定	A							
環境基準点	坂本							
水質 状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温（℃）	14. 2		15. 0		14. 1		
	全亜鉛（mg/L）	0. 005	○	0. 004	○	0. 006	○	
	BOD75%値（mg/L）	0. 5	○	0. 9	○	0. 5	○	
	pH	8. 2	○	8. 2	○	8. 2	○	
	DO（mg/L）	10	○	10	○	9. 8	○	
	SS（mg/L）	1	○	1	○	2	○	
	流量（m ³ /S）	0. 07		0. 06		0. 14		
水深（m）	0. 32		0. 18		0. 27			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	コイ、フナ、ウナギ、ブラックバス							
漁業権	無							
採捕権	有							
	対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、シラスウナギ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	レキ						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等	堰2ヶ所						

河川図

上流	◎		河口
	坂本	堰	堰

（凡例）堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

二夕間川の平均水温は14.1～15.0℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるウナギ、コイ、フナ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『坂本』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
二夕間川	生物B	イ（直ちに達成）	坂本

【袋倉川】

No.:35

地点番号：82

項目		内容						備考
河川概況		流況：山間部を流れ二夕間川に合流する河川 指定延長：7. 1 9 7Km 流域面積：7. 3 5 Km2						
水域区分		袋倉川						
水質類型指定		A						
環境基準点		まるまん橋						
水質 状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の 年平均値及び 75%値 ・○×欄は環境 基準達成状況の 判定
	水温(°C)	14.5		15.0		14.8		
	全亜鉛(mg/L)	0.005	○	0.004	○	0.005	○	
	BOD75%値(mg/L)	0.6	○	1.1	○	0.7	○	
	pH	8.4	○	8.4	○	8.4	○	
	DO(mg/L)	11	○	11	○	11	○	
	SS(mg/L)	2	○	1	○	1	○	
	流量(m3/S)	0.09		0.05		0.05		
水深(m)	0.19		0.22		0.20			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		無						
魚類の生息状況		コイ、フナ、ウナギ、ブラックバス						
漁業権		無						
採捕権		有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、シラスウナギ						
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無		幼稚仔生息場 無				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	レキ						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等	堰2ヶ所						

河川図

上流	◎	河口
堰	まるまん橋	堰

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

袋倉川の平均水温は14.5～15.0℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるウナギ、コイ、フナ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『まるまん橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
袋倉川	生物B	イ(直ちに達成)	まるまん橋

【待崎川】

No:36

地点番号:83

項目		内容						備考
河川概況		流況：市街地を流れ太平洋に注ぐ河川 指定延長：2.4Km 流域面積：19.4Km ²						
水域区分		待崎川						
水質類型指定		A						
環境基準点		横渚取水口						
水質 状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(℃)	17.3		16.9		16.5		
	全亜鉛(mg/L)	0.006	○	0.006	○	0.009	○	
	BOD75%値(mg/L)	2.3	×	1.3	○	1.3	○	
	pH	8.0	○	8.0	○	8.1	○	
	DO(mg/L)	9.7	○	9.3	○	10	○	
	SS(mg/L)	6	○	9	○	7	○	
	流量(m ³ /S)	0.15		0.03		0.02		
水深(m)	1.15		1.07		0.73			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		無						
魚類の生息状況		コイ、フナ、ウナギ、ブラックバス						
漁業権		無						
採捕権		有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、シラスウナギ						
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無		幼稚仔生息場 無				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	人工材料(コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等	堰1ヶ所						

河川図

上流	◎	河口
	横渚取水口	堰

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

待崎川の平均水温は16.5～17.3℃であり、水質状況はH19年度のBODを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるウナギ、コイ、フナ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『横渚取水口』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
待崎川	生物B	イ(直ちに達成)	横渚取水口

【加茂川】

		No.:37	地点番号 : 85					
項目	内容				備考			
河川概況	流況：長狭平野を縦断し太平洋に注ぐ河川 指定延長：22.25Km 流域面積：82Km ²							
水域区分	加茂川							
水質類型指定	B							
環境基準点	加茂川橋							
水質 状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の 年平均値及び 75%値 ・○×欄は環境 基準達成状況の 判定
	水温（℃）	18.8		19.1		18.2		
	全亜鉛（mg/L）	0.008	○	0.007	○	0.003	○	
	BOD75%値（mg/L）	1.6	○	1.5	○	2.0	○	
	pH	7.9	○	7.8	○	7.9	○	
	DO（mg/L）	8.0	○	8.6	○	8.5	○	
	SS（mg/L）	13	○	11	○	12	○	
	流量（m ³ /S）	2.85		3.80		2.81		
水深（m）	2.02		1.65		1.64			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	コイ、フナ、ウナギ、ブラックバス							
漁業権	無							
採捕権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、シラスウナギ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無		幼稚仔生息場	無			
河川・湖沼 構造物等	河床材料	レキ						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等	堰1ヶ所						

河川図

上流		◎ 河口
堰		加茂川橋

（凡例）堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

加茂川の平均水温は18.2～19.1℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるウナギ、コイ、フナ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『加茂川橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
加茂川	生物B	イ（直ちに達成）	加茂川橋

【三原川】

		No.:38	地点番号：86					
項目	内容			備考				
河川概況	流況：山間部を流れ太平洋に注ぐ河川 指定延長：11.5Km 流域面積：21.0Km ²							
水域区分	三原川							
水質類型指定	A							
環境基準点	三原橋							
水質 状況	年度	H19	H20	H21	・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定			
	水温(℃)	17.3	17.2	16.2				
	全亜鉛(mg/L)	0.011	○	0.007		○	0.009	○
	BOD75%値(mg/L)	2.1	×	1.8		○	1.7	○
	pH	8.0	○	8.1		○	8.1	○
	DO(mg/L)	9.3	○	9.6		○	9.5	○
	SS(mg/L)	10	○	14		○	14	○
	流量(m ³ /S)	0.09		0.29			0.33	
水深(m)	0.49		0.26		0.23			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	コイ、フナ							
漁業権	無							
採捕権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、シラスウナギ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土、						
	堰・ダム等	堰2ヶ所						

河川図

上流		◎	河口
	堰	三原橋	堰

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

三原川の平均水温は16.2～17.3℃であり、水質状況はH19年度のBODを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイ、フナが生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『三原橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
三原川	生物B	イ(直ちに達成)	三原橋

【丸山川】

No.:39 地点番号:88

項目		内容						備考
河川概況		流況：山間部を流れ太平洋に注ぐ河川 指定延長：13.88Km 流域面積：32.83Km ²						
水域区分		丸山川						
水質類型指定		B						
環境基準点		朝夷橋						
水質 状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	18.1		17.3		16.3		
	全亜鉛(mg/L)	0.010	○	0.006	○	0.009	○	
	BOD75%値(mg/L)	2.3	○	1.9	○	2.2	○	
	pH	8.1	○	8.0	○	8.1	○	
	DO(mg/L)	9.7	○	10	○	10	○	
	SS(mg/L)	16	○	16	○	28	×	
	流量(m ³ /S)	0.22		0.46		0.77		
水深(m)	0.26		0.21		0.25			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		無						
魚類の生息状況		コイ、フナ、ナマズ、ウナギ、メダカ、ドジョウ						
漁業権		無						
採捕権		有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、シラスウナギ						
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無		幼稚仔生息場 無				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	人工材料(コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等							

河川図

上流 ◎ 河口

朝夷橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

丸山川の平均水温は16.3～18.1℃であり、水質状況はH21年度のSSを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるウナギ、コイ、フナ、ナマズ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『朝夷橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
丸山川	生物B	イ(直ちに達成)	朝夷橋

【瀬戸川】

No:40

地点番号：89

項目	内容	備考						
河川概況	流況：南房総市千倉町を西東に流れ太平洋に注ぐ河川 指定延長：7.5 Km 流域面積：16.43 Km ²							
水域区分	瀬戸川							
水質類型指定	B							
環境基準点	瀬戸川橋							
水質 状況	年度	H19	H20	H21	・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定			
	水温(°C)	17.2	16.9	16.5				
	全亜鉛(mg/L)	0.008	○	0.006		○	0.009	○
	BOD75%値(mg/L)	1.7	○	2.0		○	1.4	○
	pH	8.1	○	8.1		○	8.2	○
	DO(mg/L)	7.8	○	8.2		○	8.2	○
	SS(mg/L)	9	○	8		○	7	○
	流量(m ³ /S)	0.24		0.12			0.19	
水深(m)	0.92		0.87		0.98			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	コイ、フナ、ハゼ、ウナギ							
漁業権	無							
採捕権	有 対象魚種：コイ、フナ、シラスウナギ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場 無 幼稚仔生息場 無							
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等							

河川図

上流

◎ 河口

瀬戸川橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

瀬戸川の平均水温は16.5～17.2℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるウナギ、コイ、フナ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『瀬戸川橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
瀬戸川	生物B	イ(直ちに達成)	瀬戸川橋

【長尾川】

		No:41	地点番号：91					
項目	内容						備考	
河川概況	流況：南房総市白浜町のほぼ中程を南下し太平洋に注ぐ河川 指定延長：7.6 Km 流域面積：17.7 Km ²							
水域区分	長尾川							
水質類型指定	A							
環境基準点	上水道取水口							
水質 状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	14.7		14.7		14.6		
	全亜鉛(mg/L)	0.005	○	0.004	○	0.006	○	
	BOD75%値(mg/L)	0.6	○	0.9	○	0.6	○	
	pH	8.2	○	8.1	○	8.2	○	
	DO(mg/L)	9.1	○	9.3	○	9.3	○	
	SS(mg/L)	1	○	2	○	1	○	
	流量(m ³ /S)	0.13		0.13		0.19		
水深(m)	0.39		0.35		0.45			
排水水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	コイ、アユ、フナ							
漁業権	無							
採捕権	有 対象魚種：コイ、フナ、シラスウナギ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等	堰2ヶ所						

河川図

上流	◎		河口
上水道取水口 堰 堰			

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

長尾川の平均水温は14.6～14.7℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイ、フナ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『上水道取水口』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
長尾川	生物B	イ(直ちに達成)	上水道取水口

【汐入川】

No:42

地点番号：93

項目	内容	備考						
河川概況	流況：市街地を流れ東京湾沿岸に注ぐ河川 指定延長：3.8Km 流域面積：20.78Km ²							
水域区分	汐入川							
水質類型指定	B							
環境基準点	要橋							
水質 状況	年度	H19	H20	H21	・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定			
	水温(℃)	17.4	18.1	18.1				
	全亜鉛(mg/L)	0.006	○	0.008		○	0.007	○
	BOD75%値(mg/L)	4.8	×	3.5		×	2.9	○
	pH	7.9	○	7.9		○	8.0	○
	DO(mg/L)	6.4	○	7.3		○	7.9	○
	SS(mg/L)	10	○	10		○	9	○
	流量(m ³ /S)	0.75		1.24			0.91	
水深(m)	0.46		0.52		0.47			
排水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	コイ、フナ、ハゼ、ボラ、スズキ							
漁業権	無							
採捕権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、シラスウナギ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場 無 幼稚仔生息場 無							
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	人工材料（コンクリートブロック等）						
	堰・ダム等							

河川図

上流

◎ 河口

要橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

汐入川の平均水温は17.4～18.1℃であり、水質状況はH19、H20年度のBODを除いた全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『要橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
汐入川	生物B	イ(直ちに達成)	要橋

【増間川】

		No:44	地点番号: 96					
項目	内容			備考				
河川概況	流況: 山間部を流れ平久里川に合流する河川 指定延長: 4.6 Km 流域面積: 8.9 Km ²							
水域区分	増間川							
水質類型指定	A							
環境基準点	池田橋							
水質 状況	年度	H19	H20	H21	・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定			
	水温(°C)	15.1	14.2	14.8				
	全亜鉛(mg/L)	0.004	○	0.005		○	0.007	○
	BOD75%値(mg/L)	0.8	○	0.8		○	0.9	○
	pH	8.1	○	8.0		○	8.1	○
	DO(mg/L)	10	○	10		○	10	○
	SS(mg/L)	2	○	4		○	4	○
	流量(m ³ /S)	0.04		0.07			0.09	
水深(m)	0.26		0.27		0.34			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	コイ、ハヤ							
漁業権	無							
採捕権	有 対象魚種: コイ、フナ、ウナギ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	人工材料(コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等							

河川図

上流

◎ 河口

池田橋

(凡例) 堰・ダム等: — 環境基準点: ◎ 現水質類型境界: ~

【類型指定の考え方】

増間川の平均水温は14.2～15.1℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『池田橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
増間川	生物B	イ(直ちに達成)	池田橋

【湊川】

		No:45	地点番号:99					
項目	内容				備考			
河川概況	流況:戸面原ダムから田園地帯・市街地を流れ東京湾に注ぐ河川 指定延長:33.14Km 流域面積:109.40Km ²							
水域区分	湊川							
水質類型指定	A							
環境基準点	湊橋							
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間(H19~H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	17.4		16.8		16.5		
	全亜鉛(mg/L)	0.004	○	0.006	○	0.003	○	
	BOD75%値(mg/L)	1.1	○	0.9	○	1.2	○	
	pH	7.9	○	7.9	○	7.9	○	
	DO(mg/L)	7.9	○	8.6	○	8.2	○	
	SS(mg/L)	4	○	6	○	4	○	
	流量(m ³ /S)	2.30		6.00		0.04		
水深(m)	1.10		1.57		1.17			
排水水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	コイ、フナ、オイカワ、スズキ、ボラ、ウナギ、ハゼ、フグ、ウグイ							
漁業権	有 対象魚種:アユ、コイ、フナ、オイカワ							
採捕権	有 対象魚種:シラスウナギ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	人工材料(コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等	ダム1箇所						

河川図

上流		◎ 河口
	戸面原ダム	湊橋

(凡例) 堰・ダム等:— 環境基準点:◎ 現水質類型境界:~

【類型指定の考え方】

湊川の平均水温は16.5~17.4℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるウナギ、ボラ、オイカワ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『湊橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
湊川	生物B	イ(直ちに達成)	湊橋

【染川】

No:46 地点番号:102

項目		内容						備考
河川概況		流況：山間地帯から市街地を流れ、東京湾に注ぐ河川 指定延長：5.7Km 流域面積：21.2Km ²						
水域区分		染川						
水質類型指定		C						
環境基準点		川向橋						
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間(H19~H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	15.9		15.5		15.9		
	全亜鉛(mg/L)	0.006	○	0.006	○	0.007	○	
	BOD75%値(mg/L)	1.4	○	1.5	○	1.9	○	
	pH	8.1	○	8.1	○	8.1	○	
	DO(mg/L)	9.1	○	9.6	○	9.6	○	
	SS(mg/L)	7	○	6	○	5	○	
	流量(m ³ /S)	0.25		0.31		0.27		
水深(m)	1.00		0.99		0.98			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		無						
魚類の生息状況		ウナギ、コイ、フナ、ハゼ						
漁業権		無						
採捕権		無						
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無		幼稚仔生息場 無				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等							

河川図

上流

◎ 河口

川向橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

染川の平均水温は15.5~15.9°Cであり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるウナギ、コイ、フナ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『川向橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
染川	生物B	イ(直ちに達成)	川向橋

【小糸川】

		No:47		地点番号:105				
項目	内容				備考			
河川概況	流況：豊英ダム・三島ダムを経て田園地帯から市街地を流れ、東京湾に注ぐ河川 指定延長：65.32Km 流域面積：148.70Km ²							
水域区分	小糸川上流		小糸川下流					
水質類型指定	B		C					
環境基準点	栗倉橋		人見橋					
水質状況	年度	H19		H20		・記載数値は人見橋における過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定		
	水温(°C)	17.4		17.0				
	全亜鉛(mg/L)	0.004	○	0.007	○		0.005	○
	BOD75%値(mg/L)	1.9	○	1.3	○		1.2	○
	pH	7.9	○	7.9	○		7.9	○
	DO(mg/L)	7.3	○	7.5	○		7.6	○
	SS(mg/L)	7	○	7	○		6	○
	流量(m ³ /S)	1.59		5.29			3.50	
水深(m)	1.63		1.56		1.46			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	アユ、フナ、ウナギ(放流)							
漁業権	有 対象魚種：アユ、コイ、フナ、オイカワ、ウグイ、ウナギ							
採捕権	無		有 対象魚種：シラスウナギ					
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土		人工材料(コンクリートブロック等)				
	堰・ダム等	ダム2箇所		堰1箇所				

河川図

上流		◎	◎		河口
豊英ダム 三島ダム 栗倉橋 人見取水堰 人見橋					

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

小糸川の平均水温は16.9～17.4℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるフナ、ウナギ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『人見橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
小糸川	生物B	イ(直ちに達成)	人見橋

【小櫃川】

		No:48				地点番号：110		
項目	内容						備考	
河川概況	流況：山間地帯から亀山ダムを経て田園地帯を流れ、東京湾に注ぐ河川 指定延長：77.03Km 流域面積：273.20Km ²							
水域区分	小櫃川上流			小櫃川下流				
水質類型指定	A			B				
環境基準点	岩田橋			小櫃橋				
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は小櫃橋における過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(℃)	18.0		17.6		17.5		
	全亜鉛(mg/L)	0.006	○	0.005	○	0.008	○	
	BOD75%値(mg/L)	1.8	○	1.8	○	1.9	○	
	pH	8.1	○	8.1	○	8.0	○	
	DO(mg/L)	8.8	○	9.5	○	8.4	○	
	SS(mg/L)	8	○	10	○	8	○	
	流量(m ³ /S)	6.51		7.25		8.72		
水深(m)	0.83		0.96		0.94			
排水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無			有				
魚類の生息状況	アユ、フナ、ウナギ(放流)			アユ、モツゴ、ボラ				
漁業権	有 対象魚種：アユ、コイ、フナ、オイカワ、ウナギ、ワカサギ、ニジマス							
採捕権	無			有 対象魚種：シラスウナギ				
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場 無 幼稚仔生息場 無							
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土		人工材料(コンクリートブロック等)				
	堰・ダム等	ダム1箇所		堰1箇所				

河川図

上流	◎	◎	河口
	亀山ダム	岩田橋 御腹川合流点	小櫃堰 小櫃橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

小櫃川の平均水温は17.5～18.0℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるフナ、ウナギ、ボラ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『小櫃橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
小櫃川	生物B	イ(直ちに達成)	小櫃橋

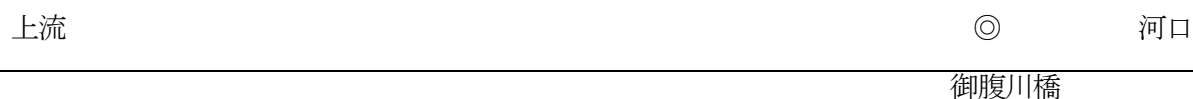
【御腹川】

No:49

地点番号：112

項目	内容	備考						
河川概況	流況：山間地帯から田園地帯を流れ、小櫃川に合流する河川 指定延長：9.05Km 流域面積：23.8Km ²							
水域区分	御腹川							
水質類型指定	A							
環境基準点	御腹川橋							
水質状況	年度	H19	H20	H21	・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定			
	水温(°C)	16.0		15.6		15.3		
	全亜鉛(mg/L)	0.004	○	0.003		○	0.009	○
	BOD75%値(mg/L)	1.4	○	1.4		○	1.4	○
	pH	8.0	○	8.0		○	8.0	○
	DO(mg/L)	9.3	○	9.4		○	9.3	○
	SS(mg/L)	4	○	8		○	5	○
	流量(m ³ /S)	0.25		0.37		0.42		
水深(m)	0.25		0.31	0.37				
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	アユ、フナ、ウナギ(放流)							
漁業権	無							
採捕権	無							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等							

河川図



(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

御腹川の平均水温は15.3～16.0℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるウナギ、フナ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『御腹川橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
御腹川	生物B	イ(直ちに達成)	御腹川橋

【養老川】

No:50

地点番号：115

項目		内容						備考
河川・湖沼概況		流況：清澄山系より市街地を流れ東京湾に注ぐ 指定延長：73.4Km 流域面積：242.6Km ²						
水域区分		養老川上流		養老川中流		養老川下流		
水質類型指定		A		B		C		
環境基準点		持田崎橋		浅井橋		養老大橋		
水質 状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は養老大橋における過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温（℃）	17.6		17.9		18.5		
	全亜鉛(mg/L)	0.006	○	0.007	○	0.005	○	
	BOD75%値(mg/L)	2.6	○	2.8	○	2.5	○	
	pH	8.0	○	8.0	○	7.8	○	
	DO(mg/L)	8.0	○	9.5	○	8.4	○	
	SS(mg/L)	16	○	11	○	10	○	
	流量(m ³ /S)	10.42		8.08		9.69		
水深(m)	1.13		1.44		2.15			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		無						
魚類の生息状況		アユ、スナヤツメ、オイカワ		コイ、メダカ		コイ、ハゼ		
漁業権		有 対象魚種：アユ、コイ、フナ、オイカワ、ウナギ、ウグイ、ニジマス、ワカサギ						
採捕権		無				有 対象魚種：シラスウナギ		
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 幼稚仔生息場		無 無				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	岩		砂				
	河岸材料	岩		人工材料（コンクリートブロック等）				
	堰・ダム等			ダム1、堰2				

河川図

上流	◎	◎			◎	河口
	持田崎橋	高滝ダム貯水池	浅井橋	西広堰	廿五里堰	中瀬橋 養老大橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

養老川の平均水温は17.6～18.5℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるオイカワ、コイ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『養老大橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
養老川	生物B	イ（直ちに達成）	養老大橋

【村田川】

No:51 地点番号:118

項目	内容	備考						
河川概況	流況：丘陵地から市街地を流れ東京湾に注ぐ 指定延長：17.5Km 流域面積：104.1Km ²							
水域区分	村田川							
水質類型指定	C							
環境基準点	新村田橋							
水質 状況	年度	H19	H20	H21	・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定			
	水温(°C)	15.7		16.5		16.7		
	全亜鉛(mg/L)	0.008	○	0.009		○	0.009	○
	BOD75%値(mg/L)	1.9	○	1.3		○	1.6	○
	pH	7.9	○	7.9		○	7.7	○
	DO(mg/L)	8.4	○	9.0		○	8.8	○
	SS(mg/L)	13	○	7		○	10	○
	流量(m ³ /S)	3.07		3.50		2.21		
水深(m)	0.75		0.97	0.82				
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	コイ、ハゼ							
漁業権	無							
採捕権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	人工材料(コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等	堰1箇所						

河川図

上流	◎ 河口
草刈堰	新村田橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

村田川の平均水温は15.7～16.7℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイが生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『新村田橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
村田川	生物B	イ(直ちに達成)	新村田橋

【都川】

No:52 地点番号:119

項目		内容						備考
河川概況		流況：千葉市内の市街地を流れる河川（低水） 指定延長：13.05Km 流域面積：36.06Km ²						
水域区分		都川						
水質類型指定		E						
環境基準点		都橋						
水質 状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温（℃）	15.2		14.7		15.5		
	全亜鉛（mg/L）	0.005	○	0.006	○	0.005	○	
	BOD75%値（mg/L）	1.3	○	1.3	○	1.0	○	
	pH	7.8	○	7.8	○	7.8	○	
	DO（mg/L）	7.7	○	7.8	○	7.7	○	
	SS（mg/L）	5	-	4	-	3	-	
	流量（m ³ /S）	3.86		7.76		5.19		
水深（m）	2.53		2.58		2.78			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		無						
魚類の生息状況		コイ、ボラ、シマイサキ、マハゼ、ヒナハゼ						
漁業権		無						
採捕権		無						
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無		幼稚仔生息場 無				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土、人工材料（コンクリートブロック等）						
	堰・ダム等							

河川図

上流	◎	河口
都橋		

（凡例）堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

都川の平均水温は14.7～15.5℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイ、ボラ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『都橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
都川	生物B	イ（直ちに達成）	都橋

【葭川】

No:53

地点番号：120

項目		内容						備考
河川概況		流況：千葉市内の市街地を流れ、都川に合流する河川（低水（感潮区間）） 指定延長：1.06Km 流域面積：14.93Km ²						
水域区分		葭川						
水質類型指定		E						
環境基準点		日本橋						
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温（℃）	15.8		15.1		15.7		
	全亜鉛（mg/L）	0.019	○	0.017	○	0.010	○	
	BOD75%値（mg/L）	5.0	○	6.9	○	6.6	○	
	pH	7.7	○	7.6	○	7.6	○	
	DO（mg/L）	4.9	○	5.0	○	5.1	○	
	SS（mg/L）	3	-	1	-	1	-	
	流量（m ³ /S）	1.03		1.04		1.14		
水深（m）	2.45		2.70		2.65			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無		無						
魚類の生息状況		コイ、スズキ						
漁業権		無						
採捕権		無						
産卵場、幼稚仔生息場		産卵場 無		幼稚仔生息場 無				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	人工材料（コンクリートブロック等）						
	堰・ダム等							

河川図

上流	◎	河口
日本橋		

（凡例）堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

葭川の平均水温は15.1～15.8℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるコイが生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『日本橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
葭川	生物B	イ（直ちに達成）	日本橋

【海老川】

No:54

地点番号：122

項目	内容						備考	
河川概況	流況：船橋市北部の金杉町、馬込町付近に源を發し、飯山満川、長津川等を合流し、船橋市湊町において東京湾に注ぐ二級河川 指定延長：2.67Km 流域面積：27.12Km ²							
水域区分	海老川							
水質類型指定	E							
環境基準点	八千代橋							
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間(H19～H21年度)の年平均値及び75%値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温(°C)	19.3		18.3		18.2		
	全亜鉛(mg/L)	0.012	○	0.024	○	0.013	○	
	BOD75%値(mg/L)	4.6	○	5.3	○	4.0	○	
	pH	7.4	○	7.6	○	7.5	○	
	DO(mg/L)	4.4	○	5.4	○	5.2	○	
	SS(mg/L)	4	-	3	-	4	-	
	流量(m ³ /S)	1.58		2.87		2.21		
水深(m)	-		2.39		2.27			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	ボラ、アユ、コイ							
漁業権	無							
採捕権	無							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト						
	河岸材料	人工材料(コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等							

河川図

上流

◎ 河口

八千代橋

(凡例) 堰・ダム等：— 環境基準点：◎ 現水質類型境界：～

【類型指定の考え方】

海老川の平均水温は18.2～19.3℃であり、水質状況は全ての項目で過去3年間環境基準に適合している。

魚類は、温水性魚類であるボラ、コイ等が生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を河川の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

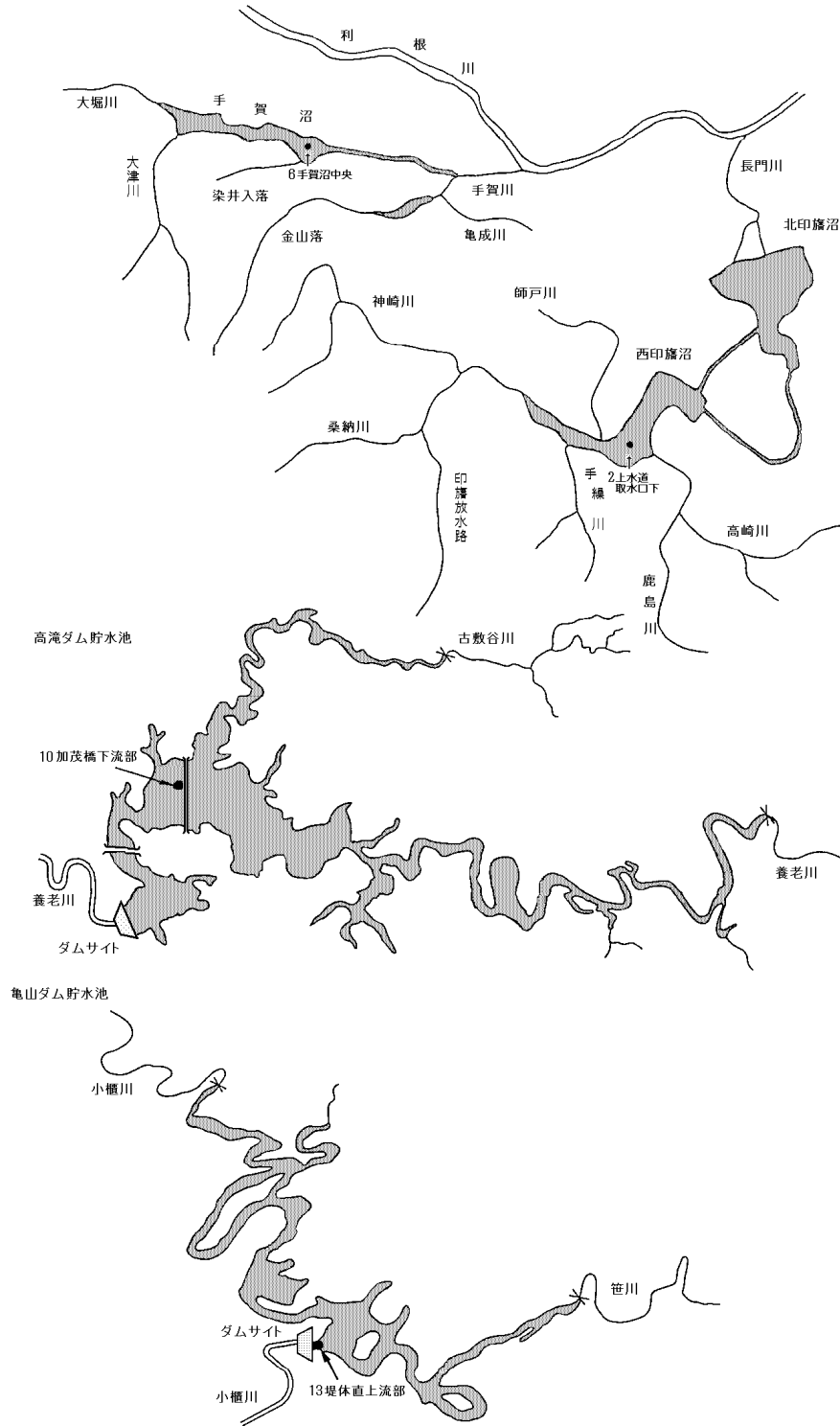
達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『八千代橋』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
海老川	生物B	イ(直ちに達成)	八千代橋

【 湖 沼 】

位置図

湖沼



注：記載番号は環境基準点の地点番号

【印旛沼】

		No:1	地点番号: 2		
項目	内容			備考	
湖沼概況	流況：千葉県の北西部、下総台地の中央に位置し、流域面積541.1Km ² （14市町）を持つ湖沼。 指定延長： Km 流域面積：541.1Km ²				
水域区分	印旛沼				
水質類型指定	A				
環境基準点	上水道取水口下				
水質状況	年度	H19	H20	H21	・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温（℃）	17.8	17.5	16.7	
	全亜鉛(mg/L)	0.007 ○	0.006 ○	0.011 ○	
	COD75%値(mg/L)	12 ×	9.6 ×	9.8 ×	
	pH	8.8 ×	8.5 ○	8.5 ○	
	DO(mg/L)	12 ○	12 ○	12 ○	
	SS(mg/L)	30 ×	22 ×	27 ×	
	流量(m ³ /S)	-	-	-	
水深(m)	1.54	1.52	1.56		
排水水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無				
魚類の生息状況	ウナギ、ワカサギ、シラウオ、サケ、タイリクバラタナゴ、オオタナゴ、ツチフキ、ニゴイ、タモロコ、スゴモロコ、モツゴ、ウグイ、オイカワ、ハス、ワタカ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、コイ、ドジョウ、チャンネルキャットフィッシュ、ナマズ、ボラ、カムルチャー、オオクチバス、ブルーギル、トウヨシノボリ、ヌマチチブ、ジュズカケハゼ、アシシロハゼ、ウキゴリ				
漁業権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、ワカサギ				
採捕権	無				
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場 有 対象魚種：モツゴ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、コイ 幼稚仔生息場 有 対象魚種：モツゴ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、コイ				
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト			
	河岸材料	土			
	堰・ダム等				

【類型指定の考え方】

印旛沼の平均水温は16.7～17.8℃であり、水質状況はH20、H21年度のpH、全亜鉛、DOが過去3年間環境基準に適合しているが、その他の項目は環境基準を達成していない。

魚類は、ウナギ、オイカワ、フナ、コイ類等の温水性魚類が多数生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を湖沼の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『上水道取水口下』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
印旛沼	生物B	イ（直ちに達成）	上水道取水口下

【手賀沼】

		No:2				地点番号:6		
項目	内容						備考	
湖沼概況	流況：沼の北側は我孫子市街地が隣接している。 南側は水田域となっている。沼の周囲には遊歩道などが整備されている。 指定延長：16.7Km 流域面積：159.5Km ²							
水域区分	手賀沼							
水質類型指定	B							
環境基準点	手賀沼中央							
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間（H19～H21年度）の年平均値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温（℃）	18.0		17.3		16.9		
	全亜鉛(mg/L)	0.006	○	0.009	○	0.011	○	
	COD75%値(mg/L)	9.7	×	9.1	×	10	×	
	pH	8.7	×	8.5	○	8.5	○	
	DO(mg/L)	13	○	12	○	12	○	
	SS(mg/L)	31	×	29	×	31	×	
	流量(m ³ /S)	-		-		-		
水深(m)	1.50		1.45		1.50			
排水水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	ウナギ、ワカサギ、サケ、タイリクバラタナゴ、オオタナゴ、ビワヒガイ、ツチフキ、ニゴイ、タモロコ、スゴモロコ、モツゴ、オイカワ、ハス、ワタカ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、コイ、チャネルキャットフィッシュ、ボラ、カムルチー、オオクチバス、ブルーギル、トウヨシノボリ、ヌマチチブ、ジュズカケハゼ、フナ、ハクレン							
漁業権	有 対象魚種：コイ、フナ、ウナギ、ワカサギ							
採捕権	無							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場		無					
	幼稚仔生息場		無					
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	土						
	堰・ダム等							

【類型指定の考え方】

手賀沼の平均水温は16.9～18.0℃であり、水質状況はH20、H21年度のpH、全亜鉛、DOが過去3年間環境基準に適合しているが、その他の項目は環境基準を達成していない。

魚類は、ウナギ、オイカワ、フナ、コイ類等の温水性魚類が多数生息している。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を湖沼の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『手賀沼中央』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
手賀沼	生物B	イ（直ちに達成）	手賀沼中央

【高滝ダム貯水池】

		No:3	地点番号: 10					
項目	内容	備考						
湖沼概況	流況: 房総半島を南北に貫通する養老側のほぼ中央に位置する人造湖。 指定延長: 3.4Km (河口からのダム位置) 流域面積: 107.1Km ² (ダム上流集水面積)							
水域区分	高滝ダム貯水池							
水質類型指定	A							
環境基準点	加茂橋下流部							
水質状況	年度	H19	H20	H21	・記載数値は過去3年間 (H19~H21年度) の年平均値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定			
	水温 (°C)	16.5	16.8	17.5				
	全亜鉛(mg/L)	0.004	○	0.005		○	0.003	○
	COD75%値(mg/L)	6.6	×	6.5		×	6.5	×
	pH	8.3	○	8.2		○	8.2	○
	DO(mg/L)	9.8	○	9.8		○	11	○
	SS(mg/L)	9	×	9		×	8	×
	流量(m ³ /S)	-		-		-		
水深(m)	5.26		5.27		5.20			
排出水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	ワカサギ、ニジマス、オオクチバス							
漁業権	有 対象魚種: アユ、コイ、フナ、オイカワ、ウナギ、ウグイ、ニジマス、ワカサギ							
採捕権	無							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	砂						
	河岸材料	人工材料 (コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等	ダム1箇所						

【類型指定の考え方】

高滝ダム貯水池の平均水温は16.5~17.5°Cであり、水質状況は全亜鉛、pH及びDOが過去3年間環境基準に適合しているが、その他の項目は環境基準を達成していない。

魚類は、ワカサギ、ニジマス、オオクチバスが生息している。

冷水性魚類であるニジマスの生息情報があるが、放流魚である。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を湖沼の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『加茂橋下流部』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
高滝ダム貯水池	生物B	イ (直ちに達成)	加茂橋下流部

【亀山ダム貯水池】

		No:4	地点番号:13					
項目	内容						備考	
湖沼概況	流況: 山間地帯を流れる小櫃川を堰き止めたダム湖。 指定延長: 20.0Km (ダム地点より上流) 流域面積: 43.9Km ² (ダム地点より上流)							
水域区分	亀山ダム貯水池							
水質類型指定	A							
環境基準点	堤体直上流部							
水質状況	年度	H19		H20		H21		・記載数値は過去3年間 (H19~H21年度) の年平均値 ・○×欄は環境基準達成状況の判定
	水温 (°C)	15.7		15.7		16.0		
	全亜鉛(mg/L)	0.006	○	0.005	○	0.005	○	
	COD75%値(mg/L)	6.7	×	6.7	×	7.3	×	
	pH	7.9	○	7.9	○	7.9	○	
	DO(mg/L)	6.6	×	7.0	×	7.0	×	
	SS(mg/L)	7	○	4	○	4	○	
	流量(m ³ /S)	-		-		-		
水深(m)	19.6		18.5		17.2			
排水水に全亜鉛が含まれる特定事業場の有無	無							
魚類の生息状況	ワカサギ (放流)、ニジマス (放流)							
漁業権	有 対象魚種: アユ、コイ、フナ、オイカワ、ウナギ、ワカサギ、ニジマス							
採捕権	無							
産卵場、幼稚仔生息場	産卵場	無						
	幼稚仔生息場	無						
河川・湖沼 構造物等	河床材料	シルト						
	河岸材料	人工材料 (コンクリートブロック等)						
	堰・ダム等	貯砂ダム1箇所						

【類型指定の考え方】

亀山ダム貯水池の平均水温は15.7~16.0°Cであり、水質状況は全亜鉛、pH及びSSが過去3年間環境基準に適合しているが、その他の項目は環境基準を達成していない。

魚類は、ワカサギ、ニジマスが生息している。

冷水性魚類であるニジマスの生息情報があるが、放流魚である。

水温、水質及び魚類の生息状況等を勘案し、全域を湖沼の『生物B』とする。

水産資源保護法に基づく保護水面の指定がなく、これと同等以上に保護が図られている情報がないことから、特別域については設定しない。

達成期間は、当該水域の全亜鉛が過去3年間環境基準以下で推移していることから、『直ちに達成』とし、環境基準点は『加茂橋下流部』とする。

水域名	類型	達成期間	環境基準点
亀山ダム貯水池	生物B	イ (直ちに達成)	堤体直上流部